



4:1 サムエルのことばが全イスラエルに行き渡ったころ、イスラエルはペリシテ人に対する戦いのために出て行き、エベン・エゼルのあたりに陣を敷いた。一方、ペリシテ人はアフェクに陣を敷いた。

4:2 ペリシテ人はイスラエルを迎え撃つ陣備えをした。戦いが広がると、イスラエルはペリシテ人に打ち負かされ、約四千人が野の戦場で打ち殺された。

4:3 兵が陣営に戻って来たとき、イスラエルの長老たちは言った。「どうして【主】は、今日、ペリシテ人の前でわれわれを打たれたのだろう。シロから【主】の契約の箱をわれわれのところに持って来よう。そうすれば、その箱がわれわれの間に来て、われわれを敵の手から救うだろう。」

4:4 兵たちはシロに人を送り、そこから、ケルビムに座しておられる万軍の【主】の契約の箱を担いで来させた。そこに、神の契約の箱とともに、エリの二人の息子、ホフニとピネハスがいた。

4:5 【主】の契約の箱が陣営に来たとき、全イスラエルは大歓声をあげた。それで地はほどよめた。

4:6 ペリシテ人はその歓声を聞いて、「ヘブル人の陣営の、あの歓声は何だろう」と言った。そして【主】の箱が陣営に来たと知ったとき、

4:7 ペリシテ人は恐れて、「神が陣営に来た」と言った。そして言った。「ああ、困ったことだ。今までに、こんなことはなかった。

4:8 ああ、困ったことだ。だれがこの力ある神々の手から、われわれを救い出してくれる

だろうか。これは、荒野で、ありとあらゆる災害をもってエジプトを打った神々だ。

4:9 さあ、ペリシテ人よ。奮い立て。男らしくふるまえ。そうでないと、ヘブル人がおまえたちに仕えたように、おまえたちがヘブル人に仕えるようになる。男らしくふるまって戦え。」

4:10 こうしてペリシテ人は戦った。イスラエルは打ち負かされ、それぞれ自分たちの天幕に逃げ、非常に大きな打撃となった。イスラエルの歩兵三万人が倒れた。

4:11 神の箱は奪われ、エリの二人の息子、ホフニとピネハスは死んだ。

イスラエルには主の箱がありました。すなわち主がおられ、主の御心がなり、その主はペリシテ人など簡単に打ち負かす全能の神です。それでイスラエルは喜びましたが、彼らが勘違いしていることがありました。それは神は自分たちの思い通りになる方ではないということです。

イスラエルは神のことばをないがしろにし、またホフニとピネハスは祭司の子どもでありながら、罪を犯し続けていたのです。主はご自身が主権を持っておられることを表すために、イスラエルの敗北を許されました。

主が人間の勝手な願いのために使えるような方でないことを知しましょう。主に勝利をいただくためには、主に従うことが先決であることを認め、そのように実行しましょう。従っていないことがあんなら、早くそれをしましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

